

電波資源拡大のための研究開発 平成18年度公募案件基本計画書の評価

案件名	実施期間	コメント
衛星通信と他の通信の共用技術の研究開発	H18-19	<ul style="list-style-type: none"> ・第4世代移動通信との共用と言う表現ではなく、対象周波数帯をCバンドに特化した方が課題がより明確になる。 ・どのような衛星通信方式を前提とするかの条件を提示する必要がある。 ・より具体的な目標設定と、研究開発の自由度の確保とのバランスを工夫すべき。
偏波多重衛星通信技術の研究開発	H18-20	<ul style="list-style-type: none"> ・Ka帯を対象にする理由を明確に述べると良い。 ・研究課題等が細かい点まで想定されており良い。 ・給電回路の小型化については、電力効率の改善にも考慮したら良い。
衛星通信用中継器における周波数高密度利用技術の研究開発	H18-21	<ul style="list-style-type: none"> ・全体のシステム構成概念が明確でないため、提案者にイメージがうまく伝わらない可能性がある。 ・「従来と比較して」の記述はより明確に記載する必要がある。 ・「実衛星を用いたフィールド実験」については、より具体的なイメージを提示しないと提案が困難ではないか。
高マイクロ波帯用アンテナ技術の高度化技術の研究開発	H18-21	<ul style="list-style-type: none"> ・アンテナをアクティブ化することと、周波数有効利用との関係をより具体化する必要がある。 ・なぜアクティブでなければならないかという点を明確にしておく必要がある。
ミリ波帯高精細映像伝送技術の研究開発	H18-21	<ul style="list-style-type: none"> ・100-140GHzを対象とする理由を明確に述べると良い。 ・到達目標等の設定が高性能を追求しすぎていないか。 ・研究計画(例)としては、変復調回路の設計・試作の終了後に送受信モジュールの設計・試作を行う方が適当ではないか。
800MHz帯映像素材中継用移動通信システムの高度化のための研究開発	H18-21	<ul style="list-style-type: none"> ・周波数利用効率の向上という観点から、MIMO-OFDM技術を対象とすることは妥当。 ・実時間伝送であるので、遅延時間の短縮化をどのように実現するかを明らかにすべき。 ・周波数の有効利用と各要素技術の開発との関係をクリアにしておくこと。